

今後の取組について

- 「推進プラン」に基づき、以下の取組を進めていく。
 - ・柱 1：「愛知モデル」の実現（需要の創出）・・・2026年度頃のローンチモデルの実現
 - ・柱 2：「令和の殖産興業」（供給力の強化）・・・研究開発機能の強化とサプライチェーンの構築
- 併せて、社会受容性の向上に向けた普及啓発活動（展示会への出展・住民向けイベント）や、空のルールづくり・安全に飛べる技術基準の策定等に関する国への働きかけも実施していく。

柱 1：「愛知モデル」の実現（需要の創出）

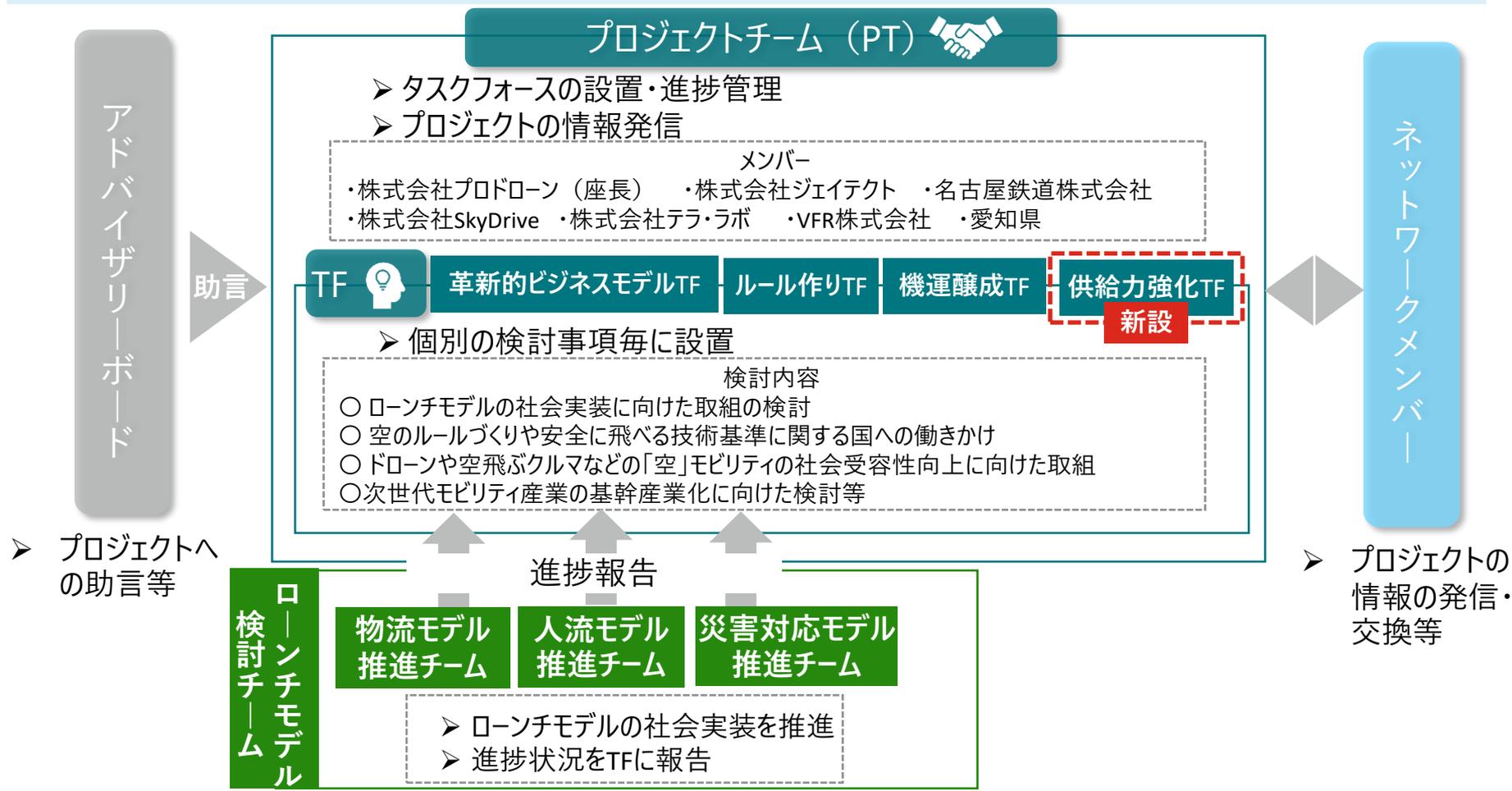
分野	「ローンチモデル」の内容	当面の取組
物流	河川流域や本州離島間を航路とした高ペイロード物流ドローンによる物流サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・物流用ドローンの社会実装に向けた実現可能性調査 ・物流用ドローンの運営事業者の参入支援
人流	限定されたエリアでの空飛ぶクルマによる遊覧飛行	<ul style="list-style-type: none"> ・遊覧飛行に向けた事業適地の調査等の実施
災害対応	災害時：デジタルマップを活用した被災地の情報収集 平時：デジタルマップを活用した各種サービス(インフラ点検等)を実施	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模災害発生直後及び平時のビジネスにおけるドローン活用可能性の検討

柱 2：「令和の殖産興業」（供給力の強化）

分野	当面の取組
産業集積	<ul style="list-style-type: none"> ・サプライチェーン構築に向けた現状分析 ・自動車・航空機産業からの部品転用可能性の検討
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代モビリティを担うエンジニア人材の育成

今後のプロジェクトの推進体制

- 2024年度以降は、ローンチモデルの実現に向けた取組を本格化。ローンチモデルに関連するステークホルダーによる座組を「ローンチモデル検討チーム」として位置づけ。
- タスクフォース（TF）は「検討チーム」の進捗管理のほか、新たに次世代モビリティの基幹産業化に向けた検討を行う「供給力強化TF」を設置。その他、ルール作りに関する国への要請や、社会受容性向上に向けた取組など、全体で取り組むべき内容を取り扱う。
- プロジェクトチーム（PT）は、大所高所からプロジェクトの方向性や進捗について議論する。



参考「あいちモビリティイノベーションプロジェクト」の今年度事業報告

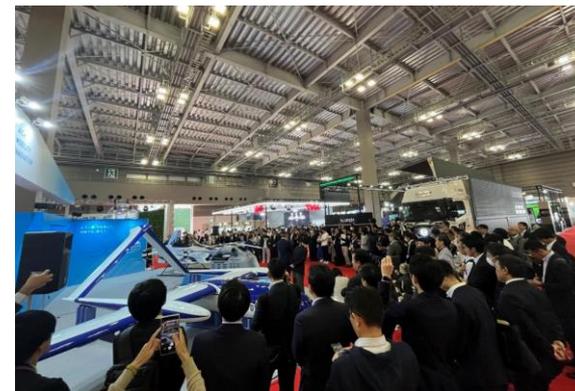
1 機運醸成に向けたイベントへの出展

- (1) JAPAN MOBILITY SHOW 2023 (10/26~11/5) への出展〔旧・東京モーターショー〕

出展社数：475企業・団体
来場者数：1,112千人

【展示機体】

プロドローン 物流用高ペイロードドローン
テラ・ラボ 長距離無人航空機
SkyDrive 空飛ぶクルマ



10/26 報道機関向けプレスブリーフィングの様子

- (2) あいちITSワールド2023 (名古屋モビリティショー同時開催) への出展 (11/23~26)

来場者数：164千人

- (3) SMART MANUFACTURING SUMMIT BY GLOBAL INDUSTRIEへの出展 (3/13~3/15)

2 事業化に向けたF/S調査

テーマ	実証の趣旨	実施場所/時期
医療コンテナへの医療物資の往復輸送	高付加価値品におけるドローン輸送の安全性や品質保持の適正性、往復利用による運用効率化を検証	豊田市 11月15日
河川上空の航路でのドローンの多目的利用	河川上空の航路を利用したドローンの多目的利用の検証	豊川市・新城市 1月31日
災害時のデジタルマップの情報共有及び平時におけるデジタルマップの活用	災害時のデジタルマップの情報共有及び平時におけるデジタルマップの活用方策の検証	名古屋市・春日井市 2月

3 推進プランの策定

プロジェクトの目指す姿や、その実現に向けた取組及びロードマップを取りまとめた推進プランを策定